

俳人協会福島県支部 第三十六回俳句大会成績

令和三年六月二十三日(木)

本部選者 坂本宮尾

坂本宮尾特選

山越えて引く白鳥の胸の張り

いわき市 古市 文子

被災地に根付きし河津桜濃し

南相馬市 船橋まつ子

三月十一日いわきの海に手を浸す

郡山市 影山美保子

飯塚恒夫特選

緑さす記号あまたの農日誌

郡山市 上石みち子

手量りの確かさ母の笹粽

郡山市 増井恵美子

底冷や書架にふるびし罪と罰

石川町 根津 世津

猪狩行々子特選

李白の詩うたひ上げたる寒稽古

いわき市 古市 文子

母の日や遺影の母の顔を拭き

いわき市 古市 文子

街なかに猿の捕物翁の忌

会津若松市 小山 孝

石橋林石特選

畦道は父の花道風光る

いわき市 西山 逢美

手量りの確かさ母の笹粽

郡山市 増井恵美子

木の実落つ怒りの声と思ひけり

喜多方市 小沢比呂子

江藤文子特選

静かなる三月十一日の昼

三春町 佐久間晃祥

ねんごろに母の爪切る日向ぼこ

会津若松市 鹿目栄八郎

ひとりずつ春風と乗る観覧車

いわき市 猪狩行々子

小沢比呂子特選

球児発つ雪で鍛へた赤ら顔

本宮市 伊藤 昭子

鷹化して鳩となる日の教師かな

会津若松市 湯田 一秋

筆箱を出してはしまふ入学児

南相馬市 佐伯 律子

久保羯鼓特選

海底に一族住う祭笛

いわき市 西山 逢美

畳屋の手鉤捌きや秋日澄む

二本松市 渡邊三一子

滝桜闇の奈落へ滝落とす

南相馬市 宮本みさ子

甲田雅子特選

狐火の揺らぐ戌辰の峠口

三春町 佐久間晃祥

安達太良の風が風追ふ稲の花

福島市 佐藤 和子

ひとりずつ春風と乗る観覧車

いわき市 猪狩行々子

佐久間晃祥特選

ミサイルを発射する国竜天に  
青空は涯まで続き原爆忌  
被爆して藍の樹液を噴く桜

矢吹町 納谷 一光  
郡山市 横山 節哉  
南相馬市 宮本みさ子

鈴木まゆ特選

少年の挑む師は祖父寒稽古  
供華の上に供華の重なる浜籠  
白線を引く少年や花吹雪

郡山市 吉田キヨ子  
三春町 宗像眞知子  
棚倉町 山口 彌代

高杉正生特選

まみえざるままの別れや春霞  
燈台の細身に海霧の巻きつけり  
猟期果つ石ころ水に落つる音

南相馬市 甲田 雅子  
郡山市 横山 節哉  
郡山市 佐藤 祥子

西内正浩特選

春暁の靴音高く生きてゐる  
新薬に命あずけて春仕事  
春昼や睡魔に五体預けゐて

福島市 久保 羯鼓  
会津坂下町 荒木 幸子  
いわき市 猪狩行々子

西山逢美特選

撫でられて警察犬を卒業す  
組替えの朝の教室チューリップ  
分校の男先生初蝶来

いわき市 古市 文子  
郡山市 影山美保子  
須賀川市 江藤 文子

納谷一光特選

撫でられて警察犬を卒業す  
冬深し靡く「ひもの」の破れ旗  
滝桜闇の奈落へ滝落とす

いわき市 古市 文子  
北茨城市 大塚 淳子  
南相馬市 宮本みさ子

橋本研二特選

大義なき侵攻春の日の陰る  
帰らざる兄の日の丸開戦日  
生者死者落花の中を通り過ぐ

三春町 佐久間晃祥  
大玉村 鈴木 月  
福島市 久保 羯鼓

葉貫琢良特選

狐火の揺らぐ戌辰の峠口  
飛び越えて雪解の堀の流れかな  
新しき墓誌の一行花菜雨

三春町 佐久間晃祥  
南相馬市 甲田 雅子  
二本松市 渡邊三一子

藤田杜与特選

海女小屋の小さき神棚梅の花  
文化財保護の校舎や新松子  
国境の多き棚田や蝌蚪の国

いわき市 古市 文子  
郡山市 川名 澄子  
矢吹町 納谷 一光

古市文子特選

ふるさとの香り立たせて今年米  
五線譜のやうな電線囀りぬ  
素饅飴に玉子をおとす厄日かな

本宮市 根本 昭吉  
会津若松市 小山 孝  
石川町 根本 世津

武藤主明特選

父の背に隠れてあたる浜焚火  
底冷や書架にふるびし罪と罰  
滝桜闇の奈落へ滝落とす

埴町 大友 康子  
石川町 根津 世津  
南相馬市 宮本みさ子

室井津与志特選

鷹化して鳩となる日の教師かな  
少年の挑む師は祖父寒稽古  
齋場を出で如月の日の眩し

会津若松市 湯田 一秋  
郡山市 吉田キヨ子  
三春町 佐久間晃祥

横山節哉特選

靖国の叔父より届く花便り  
鷹化して鳩となる日の教師かな  
海のもの天ぷらにする眞砂女の忌

小野町 佐藤 安憲  
会津若松市 湯田 一秋  
福島市 久保 羯鼓

渡邊三一子特選

耕する鋏に日永の土匂ふ  
寂として上杉城址桜満つ  
亡き父の藜の杖の握り癖

会津坂下町 荒木 幸子  
郡山市 加藤十美子  
矢吹町 藤田 杜与

選者選高得点句

1位 少年の挑む師は祖父寒稽古  
2位 ひとりずつ春風と乗る観覧車  
3位 三月十一日いわきの海に手を浸す  
4位 狐火の揺らぐ戌辰の峠口  
5位 手量りの確かさ母の笹粽  
6位 海女小屋の小さき神棚梅の花  
7位 鷹化して鳩となる日の教師かな  
8位 滝桜闇の奈落へ滝落とす  
9位 球児兎つ雪で鍛へた赤ら顔  
10位 酒の栓音よく抜けて年あらた  
11位 底冷や書架にふるびし罪と罰  
12位 まみえざるままの別れや春霞  
13位 父の背に隠れてあたる浜焚火  
14位 畦道は父の花道風光る  
15位 燈台の細身に海霧の巻きつけり

郡山市 吉田キヨ子  
いわき市 猪狩行々子  
郡山市 影山美保子  
三春町 佐久間晃祥  
郡山市 増井恵美子  
いわき市 古市 文子  
会津若松市 湯田 一秋  
南相馬市 宮本みさ子  
本宮市 伊藤 昭子  
会津若松市 小山 孝  
石川町 根津 世津  
南相馬市 甲田 雅子  
埴町 大友 康子  
いわき市 西山 逢美  
郡山市 横山 節哉

16位	安達太良の風が風追ふ稲の花	福島市	佐藤 和子
17位	畳屋の手鉤捌きや秋日澄む	二本松市	渡邊三一子
18位	筆箱を出してはしまふ入学児	南相馬市	佐伯 律子
19位	供華の上に供華の重なる浜隴	三春町	宗像眞知子
20位	親の名で呼ばれ故里暖かし	本宮市	伊藤 えき